

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を明確化し、事務所内の壁に掲示し全職員が共有できるようにしている。	管理者は、職員の入職時に理念の説明をするだけでなく、理念に沿ったケアが提供できているか、日々の実践場面でも職員に確認しています。その際は、決して指示的な態度ではなく、自分で考える機会となる様に伝え方にも配慮しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でグループホームの行事・美容院・買い物などの外出が困難となり地域の方との交流や法人内でのお祭り行事も中止となった。もう一度外部との交流が深められるよう努力が必要。	法人主催の行事を通じた地域交流は行えていませんが、事業所内での季節行事や誕生日会に力を入れて取り組んでいる様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体が、地域への貢献に配慮して、介護等に関する相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、定期的に行っている。コロナ禍で、出席予定者の会議参加が困難な時は出席予定者への運営報告や質疑交換を文章を通じて行うことがあった。今現在は通常通り行っている。	民生児童委員や家族も参加しています。前回会議では、災害時の避難について質問を受け、避難場所や備蓄について回答しています。地域住民から過去の自然災害の経験を教えてもらい、避難の目安に関する情報交換を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括支援センター職員、地域の民生委員、公民館職員と連携を取りながら取り組んでいる。	主に運営推進会議の機会を通じて連携を図っています。その他、分からない事はその都度電話で確認しており、協力関係を築くように取り組んでいる様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、研修等に参加して知識を習得し、職員の意識向上を図り、啓発に努めている。	起床時不穏が見られる入居者への対応として、安全を確保する介助方法の統一と、起床介助を行う時間を見直す等、行動の抑制とならない方法を検討し、身体拘束しないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を定期的に行い、研修等に参加して知識の習得を図り、職員の意識向上・啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員・ご家族様に対して活用できるように伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	適時契約書を頂くことにしている。また、ご家族様に対しては十分に説明をし、理解・納得できる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームでは意見箱の設置をしているが、ご家族様へは電話での報告時や来所された際に意見を伺い、随時運営に生かしている。	電話や面会時に話しやすい雰囲気作りを心掛けており、意見要望を言いやすい配慮が窺えます。また、面会時は口頭での報告だけでなく、行事時の写真を用いる等、生活の様子を伝える工夫が見受けられます。	今後も感染症対策をしながら運営していく事について説明したり、入居者の日々の様子がより伝わるような報告を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内での会議や提案書・要望書の受け入れや法人運営調整会議の参加等で機会を作っている。	管理者は日頃から職員から意見・要望を聞くように努めています。また、希望すれば誰でも法人の運営会議に参加できる仕組みがあり、直接運営に関する意見や提案を聞く機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力総評価シート(上司・部下相互評価)を取り入れたり研修を行っている。年に2度、表彰する機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加や自己啓発の重要性、認知症についての知識の獲得を常日ごろから推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は非常に難しいが内部研修やオンライン研修の機会を設け、日常的に学ぶことを推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様のご意見を伺い、また周囲の関係者からも現状を聞き、ケアプランに意見を反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様のご意見・ご要望を伺い、ケアプランに意見を反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様より十分に話を伺い、第三者の意見も取り入れながら適切なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にはグループホームが生活の場であることを共有し、信頼関係を大切にしながら声掛けを工夫している。ご利用者様に尊敬の念を持ち教えて頂く姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの一方的なケアだけでなくグループホームを通じてご家族様とご本人様が築かれている絆が増すよう、ご家族様に働きかけ共に支え合う姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの方との交流は非常に難しくなっている。電話での声の交流は少しではあるが途切れない様になっている。	感染症対策の為面会は居室の窓越しで実施する対応を取っています。家族や知人が訪ねてきた際は、職員が入居者の隣に付き添い、会話の橋渡しする等、配慮が見受けられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍でソーシャルディスタンスを保つ事で入居者様同士のコミュニケーションも少し減っている。感染に注意しながらコミュニケーションが円滑にいくよう、職員が会話の場に寄り添い支援することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な過去のケースがあるが「相談等があれば何時でもお話してください。相談にのりますので」と伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のそれぞれのペースに合わせ、ゆったりとした時間が保てるように工夫している。またご本人様及びご家族様のご意見をお聞きし尊重する姿勢をとっている。	日々の生活において、入居者の意思やペースを大切にしています。マンツーマンで関わる事ができる場面での会話や行動から、入居者の真意や思いを汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様あるいは、ご家族様より情報提供を受け、それらを職員が共有できるよう取りまとめ、コミュニケーションの中から新しい情報も取り入れられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のご本人様の状態を観察し、ご本人様の意思を尊重しながら興味のあることをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの場で、意見交換および情報交換し、ご本人様にとってなにが今優先されるか話し合いプランを作成。4か月に1度プランの見直しを行っている。	日常業務の中でアイデアを出し合って意見交換を行っています。作成した介護計画は、毎日の実施記録を付ける評価表を活用し、現状に即した内容となるように定期的な見直しを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録および申し送りノート等で情報共有と意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、必要なサービスをプランに生かしたり関係各機関と連絡を取り合うことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	適時、ご本人様及びご家族様の意向を受け入れ、関係各機関と連絡を取り合うことに務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診および受診はもちろんのこと他科受診の付き添いも支援している。	入居を期に渡辺医院が主治医となります。他科受診は、基本的に職員か家族が付き添っています。家族の付き添いが困難な場合は、必ず受診した当日に家族へ結果報告を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人様の体の様子を観察し異常があれば訪問看護と連絡を取り合い相談および助言や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様をはじめ入院先のMSW・看護師等に連絡をしたり訪問して本人様の早期退院と安心して帰れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医をはじめ職員より入居時にターミナルケアについて説明をし、ご家族様の意向を伺い同意書をいただいている。	入居時に終末期ケアと事業所に対応し得る最大のケアについて説明を行っています。終末期支援では、医師をはじめ、訪問看護師等と共にチームとなり、入居者に寄り添った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の施設内研修を研修資料、急変や事故の対応について、各職員は実践力を養うため参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を工夫して実施し対応についてはグループホーム内に掲示し職員間で共有している。また災害時における食料をはじめエマージェンシーキットなどを倉庫に備蓄し災害に備えている。	昼夜を想定し、入居者を実際に避難場所まで誘導する訓練を実施しています。事業所周辺に用水路が多い事から、洪水での浸水を想定した訓練にも力を入れて取り組んでいます。	自然災害発生時、職員が落ち着いて避難誘導できる事に加え、地域住民の防災意識を高める事も目的に、地域と共に行う災害対策、避難訓練の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、声掛けを行っている。決して乱暴な言葉遣いにならないように気をつけている。接遇の研修も法人内で行い参加している。	丁寧な敬語ではなく、慣れ親しんだ言葉を大切にしています。もし不適切な声かけがあった場合、声をかけ合い介助者を交代する事もあります。その理由は、入居者が身構えて受け身になってしまうのを防ぐためと考えており、尊厳への配慮が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し必ずご本様に聞いてみる。そして意思表示が困難な場合でも選択肢を設け自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向や希望が日々の生活の中で少しでも生かされるよう支援していく姿勢を保っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好む服を第一に考え、季節や天候に合った身だしなみができるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が食べたいものを聞いて献立に反映し、食事の下準備に参加して頂き食事の楽しみを共有している。また行事(誕生日、敬老の日、正月)等に即した食事内容に努めている。	もやしの根取りやキノコ割き等、下準備と一緒に取り組んでいます。また、入居者の作業に対して「ありがとう」と言葉で感謝を伝える事も、ごく自然に行っています。その他にも行事食等、食事を楽しむ工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護師や管理栄養士とも相談している。入居者様の摂食状況を観察しながら、内容等と個別援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、指導を受け、毎食後に声掛けおよび指導を行い全介助および一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表(排尿・排便)を記入して、必要な入居者様に対しては声掛け・誘導を行っている。	個々の排泄習慣の把握に努めています。トイレでの排尿に時間を要する入居者には「ゆっくりで良いよ」と本人のペースで排泄できる様に声かけする等、自尊心への配慮と自立支援に取り組んでいる様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、食事内容や水分摂取など検討し実行している。また主治医や訪問看護師からも助言等を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、ご本人様の希望にあわせた入浴支援に努めている。	入居者の安心感に配慮し、一連の介助を一人の職員が対応しています。入浴を拒む入居者には無理強いせず、対話しながら手浴や足浴を勧めてみる等、本人の気持ちに寄り添った入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室などの環境づくりのためご家族様に情報提供及び助言を行ったり、ご本人様にあわせた支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員各自が入居者様の服用される薬の内容等を把握するよう努めている。またご本人様の体調の変化などを常日頃観察し主治医と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の衣食住に関わる生活の中で笑顔になれる楽しみを支援し、各自の嗜好に合わせたクラフト作り等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出は困難になっている。天候の良い日に個別にて庭の散策等できることを行った。	人混みを避けた外出(深山公園の散策等)や、敷地内の散歩を行っています。また、週2回移動販売車が来ており、玄関外で入居者が直接商品を手にとって好みのお菓子を購入する機会がある等、戸外への外出機会のある暮らしを支援している様子が窺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍において外出や買物などは困難になっている。感染状況が改善され外出が可能になればご本人様の希望に添うように努めていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いたり、電話の取次ぎなど、入居者様の意向に添った支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口にも種類の違う飾りなどを付け、照明もトイレ前のダウンライトを設置しているなど工夫している。	共有空間には季節感のある装飾や入居者の作品が掲示しています。職員は空調機器の風当りが不快ではないか、射し込む自然光が網膜症をもつ入居者にとって眩しくないか、声をかけて確認する等、細やかな配慮が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーや食堂から少し離れたところに個別に関われる空間が用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンス・仏壇を持参して頂いたり、また古い写真アルバムなどの思い出のある品々を持って来ている。	ある入居者の不眠の原因を、ベッドの向きによって廊下の様子が視界に入る事も影響していると推察し、環境を見直した事で熟睡できる様になった事例があります。本人の居心地の良さを考えた居室の環境作りに取り組んでいる様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリの為、家事に参加しやすいようにアイランドキッチンを用意しており入居者様が自然に参加しやすいように環境に配慮している。		